



見沼小だより

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」

平成28年度第5号

平成28年8月29日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887



華やかな夏休み、次は東京大会！

校長 大澤 淳

長い夏休みもおわり、子どもたちの元気な声がまた学校に戻って来ました。大きな事件・事故等もなく2学期のスタートを迎えられたいへん嬉しく思います。

1学期の終業式に、「夏休みは、やりたい事とやらなくてはならない事が全部できるように、しっかり計画を立てて、そして実行しよう」と話しました。どのような夏休みでしたでしょうか。休み中、地域の夏祭りに職員とともにお邪魔しました。子どもたちが太鼓をたたいたり、踊りを踊ったり、かき氷を食べたりと、目を輝かせて楽しんでいる様子が見られ、地域の力でしっかりと育てられていることを感じました。夏休みは、家庭と地域に子どもたちをお返りする期間ですが、学校では経験できない多くの行事を体験し、強くたくましく成長している様子がよくわかりました。

夏休み中の計画を実行する基本は、早寝早起きだと考えています。自分自身の今年はどうだったかということ、毎朝、期待を込めて早起きできました。そう、オリンピックの様子が観たくて、いつもよりずっと早く起きました。日本の選手の素晴らしい活躍で、毎朝のように緊迫した戦いとメダルを勝ち取る瞬間を観ることができました。それぞれの競技にドラマがあり、たくさんの感動をもらいました。今では何度も放映されていますが、見る度にまた喜びがこみ上げるような素晴らしい大会でした。どの競技でもメダル獲得は本当にすごい事ですが、中でも大会終盤の陸上競技、男子400Mリレーの銀メダルは、世界を驚かせたようです。4人の選手の個々のタイムは世界の壁にはまだまだ及ばないものの、バトンパスの技術を磨き、好成績を勝ち取りました。まさに日本の誇るチーム力であり、一つの目標に向かってみんなで努力していく姿は、学校やクラスの取組、友だちとの関係でも、間違いなく参考になります。学校生活でもチームワークと連携する心を活かしていきたいと思います。また、4年後の東京大会では、より身近に、リアルタイムで感動が伝えられてくるだろうと思うと、ますます楽しみで、期待が膨らみます。

4年後の東京大会は、もしかしたら今の小学生の中から最年少の選手が出場しているかもしれません。今の中学生や高校生の中からは間違いなく選手は生まれているでしょう。そんな東京大会を迎えるにあたって、これからの学校教育で担うべきこともたくさんあります。多くの外国人が日本に来ます。多くの外国の方を差別や偏見なく受け入れることのできる確かな考え方、また、コミュニケーション能力や言語力、自己アピールの方法などどれも必要な力です。しかし、その根底には、相手を思いやる気持ち、相手を不快にさせない配慮、礼節を重んじる態度、和を尊ぶ考え方、日本人として恥ずかしくない行動など、これまで日本人として培ってきた伝統的な心が必要であることは言うまでもありません。私たち大人が時間をかけてじっくりとこれを再確認したうえで、良き日本の伝統を子どもたちの心の中にしっかりと根付かせていけるよう努力したいと思います。もしかしたらそれが日本の底力なのかもしれません。大袈裟ですが、4年後を目標に、日本人として育てておきたい心とはなんだろうと自問することで、学校として東京大会を迎える準備を進めたいと思います。